

令和2年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	実務経験のある 教員による授業 科目	基礎・専門 別	単位数	選択・必修 別	開講年次・ 時期
52105	子ども家庭福祉 (Child and Family Welfare)	谷村和秀		専門	2	選択	1年前期

**科目の概要**

保育者（幼稚園教諭及び保育士）として子どもやその家庭に関わるにあたって、それらの生活実態の変化と福祉ニーズ、子どもの権利条約、子ども家庭福祉に関する法・制度とサービスの体系について、その概要の理解する。保育士、幼稚園教諭となるための知識と技能及び実践的指導力と創造性を身に付け、こどもの豊かな心と想像力を養う。

学修内容	到達目標
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ 子どもの人権擁護について学ぶ 子ども家庭福祉の制度や実施体系を学ぶ 子ども家庭福祉の現状と課題を学ぶ 子ども家庭福祉の動向と展望を学ぶ	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。 子どもの人権擁護について説明する。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明できる。 子ども家庭福祉の現状と課題について、説明できる。 子ども家庭福祉の動向と展望について、説明できる

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	課題をするのに必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	講義を受動的に受けるのではなく、能動的に行動し、やり切ることができる。
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	講義で学んだことを整理し、内容を的確な文章で表現できる。
	傾聴力	教員や学生の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	授業を欠席した際に、授業をフォローするレポートが作成できる。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト：『新 はじめて学ぶ社会福祉「子ども家庭福祉論」』立花直樹・波田埜英治 ミネルヴァ書房 2,400円  
参考文献：なし

**他科目との関連、資格との関連**

他科目との関連：社会福祉、社会的養護、子ども家庭支援論、保育所実習、保育所実習指導、施設実習、施設実習指導  
資格との関連：保育士

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、子ども家庭福祉に関するニュースに目をとめてください</li> <li>・配布プリントや資料はしっかりノートにまとめておくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に必要なもの以外は、机の上には置かないようにすること</li> <li>・正しい姿勢で受講すること</li> <li>・授業中の私語は慎み、積極的に受講すること。</li> <li>・欠席6週以上欠席すると、筆記試験を受けることができない</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記(レポート含む)・ 実技・口述 試験	90	①	✓	(1)「児童福祉」から「子ども家庭福祉」の変遷が述べることができる (2)「少子高齢化」の現状が述べられ、対策が考えることができる。 (1)「子どもにとって最善の利益」が考え述べるができる (2)「幼稚園」「保育園」「認定こども園」の法的根拠・対象が述べるができる (1)「子ども家庭福祉」に関わる行政機関や「児童福祉施設」の役割が説明できる。 (2)「児童相談所」の役割や「児童手当」などの社会手当について説明できる。 「母子保健」「ひとり親家庭」「虐待・DV」「非行少年」「障がい児」等に関する法律・制度を捉え、方策を考えることができる。 「子どもの貧困」の現状をと捉えた上で、方策を考えることができる。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
	平常評価	小テスト		①		
				②		
				③		
				④		
				⑤		
		レポート		①		
				②		
				③		
				④		
				⑤		
成果発表 (プレゼンテーション・作品制作等)		①				
		②				
		③				
		④				
		⑤				
学修行動	社会人基礎力(学修態度)	10	①	✓	(主体性) 課題に取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献を使って自己学修をすることができたか。 (実行力) 一度始めたことは最後までやり切ることができたか。 (課題発見力) 思い込みや臆測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができたか。 (想像力) 物事を考える時に、固定概念に捉われないことと色々な方向から考えることができたか。 (発信力) 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 (傾聴力) 教員や学生の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるができる。 (規則性) ・欠席したら、フォローレポートを作成し提出すること ・授業開始から15分以内に入室した者は遅刻扱いとする。 ・授業開始から15分を超えて入室した者は欠席扱いとする 但し、公共交通機関の遅延による遅刻については遅刻及び欠席扱いしない。(遅延証明書を提出すること) ・許可なくスマートフォン使用と私語・居眠りで注意されたら減点とする。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価 割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
下記の条件を満たして、S(秀)もしくはA(優)とする 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷が説明できる。 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権が説明できる。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等が説明できる。 子ども家庭福祉の現状と課題が説明できる。 子ども家庭福祉の動向と展望が述べるができる 総合評価90点以上はS(秀)、89~80点をA(優)とする	下記の条件を満たして、B(良)とする 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷理解できる。 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権が理解できる。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等が理解できる。 子ども家庭福祉の現状と課題が理解できる。 子ども家庭福祉の動向が理解できる。 総合評価79~70点はB(良)、69~60点はC(可)とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	科目の概要や達成目標、評価方法について、理解する。 子どもや家庭にとっての幸せを学ぶ(DVD視聴)	講義 DVD視聴	科目の概要や達成目標が理解できる 子どもや家庭にとっての幸せを理解する。	(予習) シラバス、テキストの目次を熟読する (復習) 子どもにとっての幸せを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2週 /	子ども、家庭を取り巻く社会的状況(少子化、晩婚化など)について学ぶ 子ども家庭福祉の意味・理念を学ぶ	DVD視聴の感想をフィードバック 講義 グループワーク	少子化・晩婚化について理解できる 子ども家庭福祉の意味を理解できる。	(予習) 少子化の現状を調べる 福祉の意味を調べる (復習) 子ども、家庭を取り巻く社会的状況をまとめる。子ども家庭福祉の意味・理念を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3週 /	イギリス・アメリカ、日本の子ども家庭福祉の変遷を学ぶ	講義	欧米や日本の子ども家庭福祉の歴史的な流れが理解できる。	(予習) 「子ども家庭福祉の歴史の変遷」の箇所を熟読する (復習) 欧米や日本の子ども家庭福祉の歴史の変遷をまとめる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4週 /	子どもの権利擁護について学ぶ 日本国憲法・児童福祉法 児童の権利に関する条約	講義 グループワーク	日本国憲法第25条の意味を理解できる 児童の権利に関する条約の能動的権利について理解できる。	(予習) 日本国憲法に挙げられている権利について、調べる。 (復習) 児童の権利に関する条約について、まとめる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5週 /	子ども家庭福祉の制度と法体系について学ぶ 児童福祉法 児童福祉関係の法体系 各種手当法	講義	児童福祉法の理念が理解できる。 児童福祉関係の法体系が理解できる。 児童手当の概要が理解できる。	(予習) 児童福祉法の理念について調べる。児童手当について調べる (復習) 児童福祉法の概要をまとめる。子ども家庭福祉関係の法律をまとめる。児童手当を含む各種手当についてまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6週 /	子ども家庭福祉行財政と実施機関について学ぶ 国における実施機関 地方における実施機関 子ども家庭福祉の財政	講義	厚生労働省の役割を理解する。 児童相談所および福祉事務所の役割を理解できる。 子ども家庭福祉の財政を理解できる。	(予習) 厚生労働省を調べる。 児童相談所・福祉事務所を調べる。 (復習) 子ども家庭福祉の実施機関(国・地方)について、まとめる。 子ども家庭福祉にかかわる財源を調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7週 /	児童福祉施設について学ぶ	講義	児童福祉施設の名称と目的が理解できる。	(予習) 児童福祉施設の定義を調べる。 (復習) 児童福祉施設の目的、利用者、専門職についてまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8週 /	保育・教育施設と幼保一元化について学ぶ 保育所 幼稚園 認定こども園 地域型保育	講義	保育所・幼稚園・認定こども園の役割と利用者が理解できる。	(予習) 幼稚園と保育園の定義及び利用者について調べる。 (復習) 幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育の概要をまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	子育て支援サービスについて学ぶ 子ども・子育てビジョン 地域子ども・子育て支援事業	講義 グループワーク	地域子ども・子育て支援事業の意義と役割が理解できる。	(予習)エンゼルプランから子ども子育て支援事業の変遷を調べる。 (復習)地域の子育て支援サービスを調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10週 /	母子保健サービスについて学ぶ 母子保健の概要 児童健全育成	講義	母子保健の理念と取り組みが理解できる 育児休業制度が理解できる。	(予習)母子保健の理念とサービス内容を調べる (復習)地域の母子保健のサービス内容を調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11週 /	ひとり親家庭への福祉サービスについて学ぶ ひとり親家庭の現状 ひとり親家庭への支援	講義 グループワーク	ひとり親家庭の現状が理解できる ひとり親家庭に対する支援が理解できる。	(予習)ひとり親の現状を調べる (復習)ひとり親家庭に対するサービスをまとめる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12週 /	児童虐待とDVについて学ぶ 児童虐待 DV (ドメスティック・バイオレンス)	講義 グループワーク	児童虐待とDVの現状と対策が理解できる。	(予習)児童虐待やDV定義について調べる。 (復習)児童虐待やDV被害者の影響を調べる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13週 /	・社会的養護について学ぶ 施設養護・家庭的養護 家庭養護 ・少年非行等への支援について学ぶ。 少年法 非行少年の自立支援	講義 グループワーク	社会的養護の理念及びサービスの内容が理解できる。 少年非行に対しての社会サービスが理解できる。	(予習)社会的養護の概要について調べる 犯罪少年、触法少年、く法少年について調べる (復習)社会的養護のサービスについて調べる 非行少年に対する社会サービスについて、調べる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14週 /	障がいのある子どもの福祉・教育サービスについて学ぶ 早期発見・療育 福祉サービス 教育サービス	講義	障がい児への福祉・教育サービスを理解する。	(予習)障がいについて調べる (復習)障がい児への社会サービスをまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15週 /	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について学ぶ	講義	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応が理解する。	(予習)絶対的貧困及び相対的貧困について、調べる。 (復習)全15週の内容をまとめる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力